

中国四国地方で 一番乗りの 「人・農地プラン」 を拝見

山口県山陽小野田市平沼田集落

4月12日、中国四国地方初の「人・農地プラン」が産声をあげた。平沼田集落の「中心となる経営体」は、全16戸が加入する農事組合法人「和の郷」(15.7ha)。はたして、1集落1法人でどのようなプランを立てたのか？

代表理事の村上俊治さん(63歳)に話を聞きに、山陽小野田市へ向かった。

文=編集部 写真=高木あつ子

むらの農地を 守るために法人化

「うちのようない山あいの集落は、田んぼだったって1戸平均1ヘクタールを切っちゃるし、働き手も70歳以上がほとんどじゃろ。このままじゃ10年どころか、5年先の農地も守れない。だから、集落営農法人をつくって、16戸みんな農地を守ろうと。プランづくりは、そんな法人化の機が熟すな未来の設計図として考えたんよ」

村上さんは県職員を定年後、認定農業者となって3年になる。昨年までは個人で5ヘクタールの利用権設定を行ない、集落の農地の約半分にあたる7・5ヘクタールを耕作してきた。今回のプランでは利用権設定をすべて解除して、農事組合法人「和の郷」がゼロから農地を集積するかたちになる。結果、「農地集積協力金」の対象は11戸(戸別所得補償加入者)、合計13・3ヘクタールとなった。

むらづくりの原点は 機械共同利用

集落ぐるみの農業は1992年、任意団体「平沼田営農組合」の設立がきっかけだ。平均20アール区

画の基盤整備事業を契機に、県単事業などを活用して農業機械の共同購入・共同利用が始まった。

「土地利用型農業の経費で大きいのが機械代。小さな農地でみんなバラバラに機械を持っていたら、機械貧乏で破綻してしまうよ。だから、みんな機械を買って長く大事に使おうと。組合といっても、機械の共同利用が目的で、田んぼの作付けや販売はすべて個人でそれぞれやっていただけ」

そうした機械の共同利用が集落の連帯感の原点と村上さんは言う。

高齢農家をひとりも 脱落させない

平沼田集落には高齢者の独居世帯が3戸ある。農地の「出し手」で最高齢の今橋カズエさん(84歳)もそのひとり。プランでは56アールすべてを白紙委任した。

「農地を白紙委任したからって、農業をリタイアするわけじゃない。法人で農地をまとめて、草刈りや水管理など、細かな作業は高齢者の協力なしには無理じゃろ。今橋さんだって、まだまだ現役よ」

法人では、年5回程度の草刈りを共同作業ではなく個人任せにし、畦畔の面積割で労賃を算出する予



市内から15kmの平沼田集落(16戸・48人)



厚狭地区（平沼田集落） 人・農地プラン

市町名	地区（集落）	当初作成年月	更新年月（1回目）	更新年月（2回目）	地域の中心となる経営体の代表者
山陽小野田市	厚狭地区（平沼田集落）	平成 24 年 4 月			村上俊治

1. 今後の地域の中心となる経営体

経営体（氏名）	所属集落名	経営者・代表者の年齢（歳）	構成員（従業員）人数	後継者の有無	戸別所得補償制度の加入者	現状（平成 24 年度）		計画（平成 28 年度）		新規就農・6 次産業化・高付加価値化・複合化・低コスト化・法人化等の取組	活用が見込まれる施策				備考
						経営内容（作目）	経営規模（ha、頭数）	経営内容（作目）	経営規模（ha、頭数）		取組年度	規模拡大加算	青年就農給付金（開始型）	スーパーL 資金の金利負担軽減措置	
（農）和の郷（代表 村上俊治）	平沼田	63	30（27）	—	加入	—	0	水稲・麦・野菜	16.15	法人化、複合化	24	○			

2. 地域の中心となる経営体以外の農業者

農地の提供等により地域の中心となる経営体と連携する農業者 [国、県に報告する場合は、農業者名を記載しますが、集落・地域で使用する場合は匿名とします。]

農地の提供等により連携する農業者（出し手）	所属集落名	年齢（歳）	戸別所得補償制度の加入者	遊休農地の有無（農業委員会確認）	現状（平成 24 年度）		計画（平成 28 年度）		活用が見込まれる施策				備考（今後の役割等）
					経営内容（作目）	経営規模（ha、頭数）	経営内容（作目）	経営規模（ha、頭数）	経営転換協力金	分散錯圃解消協力金	その他	活用が見込まれる採択事業なし	
A	平沼田	79	加入	無	水稲	1.14	—	0.00	○				全ての農地を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。
B	平沼田	84	加入	無	水稲	0.56	—	0.00	○				全ての農地を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。
C	平沼田	77	加入	無	水稲	0.78	—	0.01	○				農地 0.78ha のうち 0.77ha を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り 0.01ha は畦畔。
D	平沼田	67	加入	無	水稲	1.25	野菜	0.40	○				地域の中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り 0.40ha は野菜経営へ転換する。
E	平沼田	83	加入	無	水稲	1.84	野菜	0.34	○				農地 1.84ha のうち 1.50ha を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り 0.34ha は野菜経営へ転換する。
F	平沼田	74	加入	無	水稲	1.31	野菜	0.23	○				農地 1.31ha のうち 1.08ha を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り 0.23ha は野菜経営へ転換する。
G	平沼田	63	加入	無	水稲、大豆他	2.98	野菜	0.47	○				地域の中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り 0.47ha は野菜経営へ転換する。
H	平沼田	80	加入	無	水稲	1.28	野菜	0.33	○				農地 1.28ha のうち 0.95ha を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り 0.33ha は野菜経営へ転換する。
I	平沼田	61	加入	無	水稲、野菜	1.72	野菜	0.17	○				地域の中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り 0.17ha は野菜経営へ転換する。
J	平沼田	77	加入	無	水稲	0.87	—	0.00	○				全ての農地を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。
K	平沼田	77	加入	無	水稲	1.72	野菜	0.15	○				地域の中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り 0.15ha は野菜経営へ転換する。
L	平沼田	83	非加入	無	野菜	0.09	—	0.00				○	自己経営。 H 26 年度以降作業委託を検討。
M	平沼田	71	非加入	無	自己保全	1.03	—	0.00				○	自己経営。 H 26 年度以降作業委託を検討。
N	平沼田	82	非加入	無	自己保全	1.39	—	0.00				○	自己経営。 H 26 年度以降作業委託を検討。
O	平沼田	91	非加入	無	自己保全	0.81	—	0.66				○	自己経営。 H 26 年度以降作業委託を検討。
P	平沼田	72	非加入	無	水稲	0.12	—	0.00				○	自己経営。 H 26 年度以降作業委託を検討。